

授業科目 (履修区分)	キャリアビジョン講座 (選択科目)		担当教員	佐藤 真理子 加瀬 和美 研究科職員	
対象年次	研究科1年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	1単位	講義： 1単位	時 間 数	15時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	農業関係企業や農業法人への就職希望者が、キャリアビジョンの構築、 業界・企業研究に取り組み、社会にでて働く意識や意欲の向上を図る。				
授業の到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを通じて自己を理解し、説得力のある自己PRができる。 ・企業分析に取り組み、他者に伝わる志望動機の作成とプレゼン技術を習得する。 ・面接のマナーを習得する。 				
授業の方法	3～4名でのグループワーク主体の講座とする。				
授業内容				講義	実習
	1	ガイダンス・就活の「航海図」を描く (ワーク) 就活の不安・期待のシェア		2	
	2	自己理解・他己分析「あなたの凄さ発見会」 (ワーク) エピソード・フィードバック		2	
	3	志望先研究・「勝手に」法人/自治体プレゼン (ワーク) 推し組織の魅力プレゼン		2	
	4	志望動機の文章化・「ラブレター」添削ワーク (ワーク) 志望動機の「共感度」チェック		2	
	5	対人演習・「強み」を響かせる1分間トーク (ワーク) 褒め褒め面接練習		2	
	6	実践演習・「不採用でも大丈夫」シミュレーション (ワーク) 模擬面接 & 立ち直り会議		2	
	7	企業説明会参加 (3回)		3	
テキスト					
成績評価 の方法	授業への取り組み姿勢 (50%)、面接準備 (50%)				
備 考					

授業科目 (履修区分)	農村社会実習 I (選択科目)		担当教員	宮城美紀子、藤井雄樹	
対象年次	研究科 1 年		期 別	令和 8 年度 1 か年通年	
単 位 数	1 単位	講義： 単位	時 間 数	3 0 時間	
		実習： 1 単位			
授業の目的 及び概要	地域活動の活性化につながる社会貢献活動に取り組むことを通して、農業指導者としての資質を高める。				
授業の到達 目標	地域社会貢献活動の意義を理解し、実体験することで、地域社会の課題や解決策を学ぶ。				
授業の方法	すでに行われている地域貢献活動について調査し、活動に参加する。 活動は、休日、夏休み、放課後、空き時間等を利用する。				
授業内容				講義	実習
	1	ガイダンス 地域で行われている社会貢献活動について			4
	2	地域貢献活動の調査および参加計画書の作成			2
	3	社会貢献活動の実施 半日(3～4時間)の活動の場合 5回以上 1日(6～7時間)の活動の場合 3回以上			20
	4	各参加日毎の活動報告書の作成及び提出			4
テキスト	プリント 活動報告書様式配布				
成績評価 の方法	活動内容及び報告書 (100%)				
備 考					

授業科目 (履修区分)	農村社会実習Ⅱ (選択科目)		担当教員	宮城美紀子、藤井雄樹	
対象年次	研究科2年		期 別	令和9年度 1か年通年	
単位数	1単位	講義： 単位	時間数	30 時間	
		実習： 1単位			
授業の目的 及び概要	地域活動の活性化につながる社会貢献活動に取り組むことを通して、農業指導者としての資質を高める。				
授業の到達 目標	地域社会貢献活動の意義を理解し、実体験することで、地域社会の課題や解決策を学ぶ。				
授業の方法	すでに行われている地域貢献活動について調査し、活動に参加する。 活動は、休日、夏休み、放課後、空き時間等を利用する。				
授業内容				講義	実習
	1 ガイダンス 地域で行われている社会貢献活動について				4
	2 地域貢献活動の調査および参加計画書の作成				2
	3 社会貢献活動の実施 半日(3～4時間)の活動の場合 5回以上 1日(6～7時間)の活動の場合 3回以上				20
	4 各参加日毎の活動報告書の作成及び提出 (地域貢献活動の主催者の担当者氏名及びコメント)				4
テキスト	プリント 活動報告書様式配布				
成績評価 の方法	活動内容及び報告書 (100%)				
備 考					

授業科目 (履修区分)	有機農業実習 (選択科目)		担当教員	真行寺 孝 高田 伯約	
対象年次	研究科1年		期 別	後期	
単位数	1単位	講義： 単位	時 間 数	30時間	
		実習：1単位			
授業の目的 及び概要	有機農業に係る特有の栽培技術や活用される主要な有機質資材の知識を学ぶとともに、有機農業を取り巻く情勢と課題について理解を図る。				
授業の到達 目標	有機農業に取り組むために必要な知識・技術の習得及び有機農業の課題について理解する。				
授業の方法	有機農業に係る知識・技術を習熟するための実習とし、理解度をレポートにより確認する。				
授業内容				講義	実習
	1 有機農業をはじめよう、太陽熱土壌消毒 2 土を育てる有機農業、土は生き物 3 有機農業で使える様々な手段 4 有機農業における雑草、病害虫、有用生物 5 栽培作物の連作障害と対策 6 有機農業の元気な栽培作物 7 栽培環境の影響と植物ホルモン 8 期末レポート				2 2 2 2 2 2 2 2
テキスト	担当者作成資料				
成績評価 の方法	レポートを実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○レポート:50% ○実習への参加・取り組み:50%				
備 考	参考図書「みんなの有機農業技術大辞典」(農文協)				

授業科目 (履修区分)	スマート農業技術論 (選択科目)		担当教員	藤井 雄樹	
対象年次	農学科2年 研究科2年		期 別	令和9年度 後期	
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	15時間	
授業の目的 及び概要	幅広い作目に関連するスマート農業について、技術の概要や活用事例、導入効果等について解説を行う。また、実際の機器についても知見を深める。				
授業の到達 目標	スマート農業を情報の認知、判断、作業の実施に大別し、中小規模の農家でも利用可能な技術の理解を目指す。また、実際の機器やシステムについても知見を深め、生産性の高い営農技術の習得を目指す。				
授業の方法	講義は講座の半分はスマート農機メーカー等の外部講師による講義または現地の講義とする。(研究科でも履修可)				
授業内容				講義	実習
	1	スマート農業とは何か、情報の認知段階		2	
	2	情報の判断段階、作業の実施段階①		2	
	3	スマート農業機器の紹介① (外部講師)		2	
	4	スマート農業機器の紹介② (外部講師)		2	
	5	スマート農業機器の紹介③ (外部講師)		2	
	6	スマート農業機器の紹介④ (外部講師)		2	
	7	作業の実施段階②、スマート農業まとめ		2	
	8	レポート作成 (テスト形式)			
テキスト	資料を配布する。				
成績評価 の方法	中間レポート (79%)、授業への取組 (21%、1回出席3%)				
備 考	参考図書「図解よくわかる スマート農業」(日刊工業新聞社) スマート農業オンライン講座 フォローノート第2章 応用編 (北海道大学スマート農業教育拠点)				

授業科目 (履修区分)	農業政策論 (選択科目)		担当教員	井月 明 江口 菜	
対象年次	農学科1年 研究科1年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	15時間	
授業の目的 及び概要	食糧・農業・農村基本計画、千葉県農林水産業振興計画に基づく、本県の農業施策の方向性および具体的な施策の内容を学ぶ。				
授業の到達 目標	本県農政の動向、施策の具体的な内容を理解し、本県農業を幅広い視点から捉える、客観的な判断力を養う。				
授業の方法	関係する部署の職員の説明及び質疑応答、また学生同士のディスカッションにより、本県農業施策を理解させる。				
授業内容				講義	実習
	1	食料・農業・農村基本計画、千葉県農林水産振興計画について		2	
	2	農業を支える新たな担い手の確保（担い手支援課）		2	
	3	農地利用の最適化	（農地・農村振興課）	2	
	4	生産力の強化による稼げる園芸の実現・園芸部門戦略 （生産振興課）		2	
	5	中間レポート			
	6	農山漁村における地域資源の活用 地域資源を活用した需要の創出・拡大 （農地・農村振興課）		2	
	7	環境に配慮した農業や有機農業、耕畜連携の推進 （環境農業推進課）		2	
	8	期末試験		2	
テキスト	食料・農業・農村基本計画、千葉県農林水産業振興計画				
成績評価 の方法	中間レポート、期末試験により評価 中間・期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢・発表（30%）				
備 考					

授業科目 (履修区分)	生物統計学 (選択科目)		担当教員	溝田 俊之	
対象年次	農学科1年 研究科1年		期 別	令和8年度 後期	
単位数	2単位	講義：2単位	時間数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	データの整理・要約方法を身につけ、データの要約やグラフからデータの傾向について考察できるようになる。基礎的な推測統計学が理解できる。				
授業の到達 目標					
授業の方法					
授業内容				講義	実習
	1 統計学の概要と考え方 母集団と標本 2 情報の可視化 グラフの作り方 3 2変量の関係 相関係数 4 標本集団の特性の捉え方 代表値とばらつき 5 度数分布とヒストグラム 6 度数分布から確率分布へ 確率密度関数 7 正規分布の特徴 標準偏差と割合 8 区間推定 9 χ^2 (カイ自乗) 分布とF分布 10 仮説検定 母平均の検定 11 z検定とt検定 12 2群の平均の差の検定 13 分散分析 14 分散分析と多重比較 15 期末演習試験				
テキスト	栗原伸一著「入門 統計学(第2版)」、オーム社 参考図書：福井正康著「基礎からの統計学」、 https://www.heisei-u.ac.jp/ba/fukui/text.html				
成績評価 の方法	期末演習試験を実施する。 評価配分は以下の通りとする。 期末演習試験 (40%)、演習への取り組み・発表 (40%)、平常点(20%)				
備 考					

授業科目 (履修区分)	有害鳥獣対策講座 (選択科目)		担当教員	浅田 正彦	
対象年次	農学科1年・2年 研究科1年・2年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	1単位	講義 : 0.5 単位	時 間 数	24時間	
		実習 : 0.5 単位			
授業の目的 及び概要					
授業の到達 目標	檻、わな猟免許の取得ができる講座 (座学と実習)				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
テキスト					
成績評価 の方法					
備 考					

ウ 専攻実習

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (必修科目)		担当教員	各専攻 教員-	
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年	
単 位 数	2 2 単位	講義： 単位	時 間 数	6 6 0 時間	
		実習： 2 2 単位			
授業の目的 及び概要	各専攻教室に所属し、農畜産物の生産や調査を通じて生産技術・加工利用・課題等について学習するとともに、研究成果（課題研究）に取り組み、問題解決能力を高める。				
授業の到達 目標	各専攻において栽培管理・育苗技術、収穫調製技術、貯蔵技術を習得し、栽培技術の高位化を目指す。また、経済的生産手法についても知見を深める。				
授業の方法	実習形式（ほ場での指導）				
授業内容				講義	実習
	<p>次の 11 専攻教室に所属し、その専攻教員の指導により専門的な実習に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 作物専攻教室 2 露地野菜専攻教室 3 施設野菜専攻教室 4 果樹専攻教室 5 花卉専攻教室 6 畜産専攻教室 7 生物工学専攻教室 8 病虫害専攻教室 9 土壌肥料専攻教室 10 食品加工専攻教室 11 情報経営専攻教室 				
テキスト	各専攻教室 必要により資料提供				
成績評価 の方法	各専攻教室 必要により資料提供				
備 考					

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (作物) (必修科目)		担当教員	藤井 雄樹 太田 和也	
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年	
単 位 数	2 2 単位	講義 : 単位 実習 : 2 2 単位	時 間 数	6 6 0 時間	
授業の目的 及び概要	代表的な食用作物 (水稲、ムギ類、マメ類、イモ類他) の栽培技術、収穫調製方法、貯蔵方法等について学習し、経済性や収量向上等の応用的な内容も習得する。スマート農業等による省力化技術やGAPに関する知識を習得し、その活用方法を学ぶ。				
授業の到達 目標	食用作物の栽培管理・育苗技術、収穫調製技術、貯蔵技術を習得し、栽培技術の高位化を目指す。また、経済的な作物生産についても知見を深める。				
授業の方法	実習形式 (ほ場での指導)				
授業内容				講義	実習
	1 水稲および畑作物の栽培管理技術 水稲、マメ類、イモ類、その他穀類の栽培計画を立て、ほ場準備、育苗、管理、収穫の流れと必要な技術を学ぶ。				160
	2 農業機械の操作方法、穀物の乾燥調製方法 ほ場準備や管理、収穫に必要な農業機械の操作方法、穀類の乾燥調製方法、貯蔵方法を学ぶ。				160
	3 経営能力の向上 10aあたりの粗収量や売上を数値で把握し、理解することで、実際の経営時に求められる算出方法を学ぶ。最終的には収益を計算し、農業経営を行う能力養成につなげる。				160
	4 水稲および畑作物の販売方法 学校直売や社稷祭を通じて、販売方法を学ぶ。				160
5 農産物生産工程管理 GAPで認証の経験を活かし、農場の実情に合った労働安全や衛生管理方法、記録体制等の農場運営方法を学ぶ。				20	
テキスト	必要により資料提供				
成績評価 の方法	取り組む姿勢 (70%)、技術・知識の習得状況 (30%)				
備 考	参考図書 : 「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議) 「農作物病害虫雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)				

授業科目 (履修区分)	専攻実習（露地野菜） (必修科目)		担当教員	山下 雅大 池邊 慧祐
対象年次	研究科1年 研究科2年		期 別	令和8年度 2か年通期
単位数	22単位	講義： 単位 実習： 22単位	時間数	660時間
授業の目的 及び概要	<p>農学科等で学んだ知識を基礎に、ほ場における実際栽培を学ぶ。</p> <p>主要な露地野菜と無加温ハウスで栽培される野菜の生理生態や肥培管理及び出荷調製技術等を学習する。</p> <p>また、研究科生として、専門的知識はもとより、地域農業のリーダーや指導者としての資質向上を図る。</p>			
授業の到達 目標	<p>1 主要な露地野菜の生理生態や肥培管理及び出荷調製技術の習得</p> <p>2 露地野菜経営の基礎知識の習得</p>			
授業の方法				
授業内容			講義	実習
	<p>1 野菜に関する知識の習得</p> <p>(1)野菜の分類と栽培方法</p> <p>(2)野菜の作付(輪作)計画と収支計算</p> <p>(3)周年栽培や端境期に出荷するための栽培技術</p> <p>(4)播種から販売までの実践</p>			300
	<p>2 栽培管理技術の習得</p> <p>(1)果菜類、豆類の品種特性、肥培管理、病虫害防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を深める。</p> <p>(2)葉茎菜類の育苗管理、肥培管理を習得する。</p> <p>(3)軟弱野菜の周年栽培技術を習得する。</p> <p>(4)根菜類、いも類の品種特性やマルチ利用効果の理解を深める。</p>			300
	<p>3 GAPやスマート農業等に対する理解促進、効率的かつ適正な作業環境・作業方法の習得</p>			60
テキスト	適宜資料を配布			
成績評価 の方法	出席状況(40%)、実習態度(40%)、技術・知識の習得状況(20%)			
備 考	<p>参考図書：「野菜栽培の基礎」、「新野菜つくりの実際(第2版)」(社団法人 農山漁村文化協会)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)</p>			

3 教養科目

授業科目 (履修区分)	専攻実習（施設野菜） (必修科目)		担当教員	江口 菜 江澤 和哉	
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年	
単 位 数	2 2 単位	講義： 単位 実習： 2 2 単位	時 間 数	6 6 0 時間	
授業の目的 及び概要	トマト・キュウリ・メロン・イチゴ等の施設野菜の栽培を通じ、栽培管理技術と販売等の経営管理技術を学び、経営管理能力を習得する。				
授業の到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設野菜に関する生理生態・栽培管理技術を理解する。 ・ 農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。 ・ 施設野菜産地の現状や課題を把握する。 				
授業の方法	農場での実習及び現地視察				
授業内容				講義	実習
	1 野菜に関する知識の習得 (1) 施設野菜の分類と栽培方法 (2) 施設野菜の育苗と栽培管理 (3) 病害虫の診断と対処法 (4) 環境負荷に考慮した栽培方法 (5) 農業生産工程管理・スマート農業・環境制御技術				160
	2 栽培管理技術の習得 (1) 果菜類（トマト・キュウリ・イチゴ・スイカ等）の品種特性、肥培管理、病害虫防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。 (2) 葉茎菜類（コマツナ・ホウレンソウ等）の栽培管理、肥培管理を習得する。				100
	3 知識や技術の実践力の体得 (1) 学生ごとに圃場や作物の栽培管理の実践				300
	4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 (1) 千葉県施設野菜産地の現状と課題の把握				100
テキスト	適宜資料配布				
成績評価 の方法	出席状況（40%）、実習態度（40%）、技術・知識の習得状況（20%）				
備 考	参考図書「野菜栽培の基礎」（農文協）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」（千葉県農林水産部安全農業推進課）、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部安全農業推進課）				

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (果樹園芸) (必修科目)		担当教員	吉田 明広 井上 雄樹
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年
単 位 数	2 2 単位	講義 : 単位 実習 : 2 2 単位	時 間 数	6 6 0 時間
授業の目的 及び概要	<p>県主要品目であるニホンナシ、ビワを中心に、年間を通して果樹栽培に必要な知識と技術を習得する。</p> <p>実習は、作業内容の説明や技術的な講義を事前に実施し、理論的な思考と実践を組み合わせることで理解度の向上を促す。</p>			
授業の到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンナシの生理生態や栽培技術及び品質管理技術について理解する。 ・その他の果樹について栽培技術を理解する。 ・千葉県内の果樹産地の現状や課題を把握する。 ・農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。 			
授業の方法	農場での実習及び現地視察			
授業内容		講義	実習	
	1 果樹に関する知識の習得 (1) 果樹の栽培方法 (2) 果樹の繁殖法と果実の品質管理 (3) 病害虫の診断と対処法 (4) 農業生産工程管理、スマート農業機械		100	
	2 栽培管理技術の習得 (1) 落葉果樹 (ナシ・ブルーベリー・ブドウ) の品種特性、施肥管理、病害虫防除、剪定などの基本的な技術習得と理解を進める。 (2) 常緑果樹 (ミカン・ビワ等) の品種特性、施肥管理、病害虫防除、剪定などの基本的な技術習得と理解を進める。		160 (120)	
	3 実践力の習得 (1) 課題研究対象品目の栽培管理の実践 (2) その他の果樹の栽培管理の実践 (共同管理)		300	
	4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 (1) 千葉県果樹産地の現状と課題の把握		100	
テキスト	適宜資料配布			
成績評価 の方法	取り組む姿勢(実習ノート含む) (80%)、技術・知識の習得状況 (20%)			
備 考	<p>・実習ノートを適宜提出し、実習の理解度について確認する。</p> <p>参考図書 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)</p>			

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (畜産) (必修科目)		担当教員	伊藤 香葉 吉田 早希	
対象年次	研究科1年・2年		期 別	令和8年度 2か年通年	
単位数	22単位	講義： 単位 実習：22単位	時間数	660時間	
授業の目的 及び概要	<p>農学科で学んだ基礎的知識を基に、畜産全般における専門的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>乳用育成牛等反芻動物の飼育繁殖管理、肥育繁殖豚、採卵鶏の飼育管理と疾病の対応、家畜の衛生管理（流行性人畜共通伝染病）を学ぶ。</p> <p>また、研究科生として専門的知識はもとより、地域農業のリーダーとしての資質の養成や指導者としての実践力のかん養を図る。</p>				
授業の到達 目標	<p>1 畜産に関する専門知識の習得</p> <p>2 高度な家畜繁殖技術・衛生管理技術の習得</p> <p>3 地域農業のリーダー及び指導者としての実践力のかん養</p>				
授業の方法	カリキュラムに従い実習を実施する。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	<p>1 畜産に関する専門知識の習得</p> <p>(1)家畜の分類と飼育管理方法</p> <p>(2)家畜の系統造成等に関する知識の習得</p> <p>(3)飼料用牧草地の管理と牧草の育生方法</p> <p>(4)環境に配慮した農業やスマート農業技術習得</p> <p>(5)アニマルウェルフェアによる飼育管理方法の技術習得</p> <p>2 家畜繁殖技術・衛生管理技術の習得</p> <p>(1)高度な繁殖技術（AI、受精卵移植技術等）の基本知識習得</p> <p>(2)家畜伝染病の診断と衛生管理方法</p> <p>3 地域農業のリーダー及び指導者としての実践力のかん養</p> <p>学生ごとの圃場や家畜の飼育管理の実践</p>			220	220
テキスト	「家畜飼育の基礎」阿部亮他（農山漁村文化協会/2008）				
成績評価 の方法	<p>評価配分は以下の通りとする。</p> <p>○出席状況：40%</p> <p>○実習態度：40%</p> <p>○技術・知識の習得状況：20%</p>				
備 考	<p>参考図書</p> <p>日本飼養標準（中央畜産会/乳牛2017、肉用牛2022、豚2013、家禽2011）</p> <p>日本標準飼料成分表（中央畜産会/2009）</p> <p>千葉県畜産総合センター研究報告書</p>				

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (生物工学) (必修科目)		担当教員	中田 菜々子	
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年	
単 位 数	2 2 単位	講義 : 単 位	時 間 数	6 6 0 時間	
		実習 : 2 2 単位			
授業の目的 及び概要	各自の研究テーマに合わせた試験研究を計画実行し、技術を習熟する。また、テーマ以外の生物や生物工学的手法についても理解し習得する。				
授業の到達 目標	組織培養技術の習熟				
授業の方法	実習形式				
授業内容				講義	実習
	1 無菌操作技術の習熟 クリーンベンチの使用法、実験器具の滅菌方法 2 植物組織培養技術の習熟 培地設計、外植体の摘出、培養経過の調査方法、増殖、順化 3 実験植物等の栽培技術の習熟 (1) 圃場・温室の管理方法 (2) 実験植物の播種・育苗・かん水・温度管理・病害虫管理方法 4 農業分野における生物工学的手法の習得 ウイルスフリー苗の生産、クローン苗の大量生産 5 文献等情報収集法の習熟 (1) 課題に関連する学術論文等の検索方法 (2) 学術論文の読み方 6 実験スケジュールの管理 随時実験スケジュールを見直し、計画的に実験を進める 7 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 農学科学生の圃場作業及び実験の補助等を通じコミュニケーション能力や説明能力を向上する				200 200 120 100 10 10 20
テキスト	実習内容によって適宜関連文献等を配布				
成績評価 の方法	取り組む姿勢 (50%)、知識・習熟度 (50%)				
備 考					

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (病虫害) (必修科目)		担当教員	清水 敏夫
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年
単 位 数	2 2 単位	講義 : 単位	時 間 数	6 6 0 時間
		実習 : 2 2 単位		
授業の目的 及び概要	病虫害に関する知識向上のため、病虫害専攻教室ほ場において実際の栽培や病虫害の発生生態、防除方法を学ぶ。また、各自のテーマに合わせた調査研究の実施とその結果の取りまとめを行う。			
授業の到達 目標	病虫害及び天敵の発生生態の解明 総合的病虫害管理技術等の習得			
授業の方法	実習及び現地視察			
授業内容			講義	実習
	1 病虫害の発生生態や管理技術等に関する知識の習得 (1) 農作物の病虫害の診断・同定、生理生態 (2) 農作物害虫と天敵の見分け方、天敵の分類、生態等 (3) 総合的病虫害・雑草管理 (IPM) の考え方 (4) IPM を念頭に置いた病虫害管理技術とその実践方法 (5) IPM の実践における経営的な評価			150
	2 栽培管理技術の習得、病虫害や天敵の増殖技術等の習得 (1) 農作物の播種、育苗技術の習得 (2) 農作物の栽培技術及び収穫方法の習得 (3) 農作物の病虫害管理技術の習得 (4) 病虫害や天敵の飼育・増殖方法等の習得			150
	3 知識や技術の実践力の体得 試験設計、試験区の設定、調査方法、データの集計方法、 解析方法、プレゼンテーション方法の習得及び実践			300
4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 (1) 農学科学生の圃場作業及び実験の補助 (2) 地域実践活動を通じて、高いコミュニケーション能力や信頼関係の構築				60
テキスト	実習内容によって適宜関連文献等を配布			
成績評価 の方法	取り組む姿勢 (50%)、知識・習熟度 (50%)			
備 考				

授業科目 (履修区分)	専攻実習（土壌肥料） (必修科目)		担当教員	高田 伯約
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年
単 位 数	2 2 単位	講義： 単位 実習： 2 2 単位	時 間 数	6 6 0 時間
授業の目的 及び概要	環境に配慮した農業経営に必要な知識や土壌管理技術等を学習し、有機質肥料の作成や土壌診断の読み取り等の実習を通じて、将来を見据えた土壌改善の取り組みについて理解を深める。			
授業の到達 目標	環境保全型農業の取組を理解し、有機質肥料の活用や土壌改善の取り組みを中心とした栽培管理技術を習得することを目標とする。			
授業の方法				
授業内容	1 土壌管理に係る知識の習得		講義	100
	(1) 土壌分析方法			
	(2) 土壌分析を基にした施肥設計及び栽培管理			
	(3) 収量調査、土壌調査、その他の調査（食味調査等）			
2 栽培管理技術の習得			160	
(1) 栽培品目の品種特性を理解し、適切な施肥設計や病虫害防除等の基本的な栽培技術を習得する。				
(2) 環境に配慮した農業経営に係る栽培技術を習得する。				
3 実践力の体得			300	
(1) 課題研究対象品目の栽培管理及び土壌改善の実践				
(2) その他品目の栽培管理及び土壌改善の実践				
4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養			100	
(1) 千葉県における環境に配慮した農業経営の現状と課題の把握				
テキスト	適宜資料配布			
成績評価 の方法	実習態度（80%）、技術・知識の習得状況（20%）			
備 考	参考図書 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）、「農業技術体系」、「土と施肥の新技术」、「みんなの有機農業技術大辞典」（社団法人 農山漁村文化協会）			

授業科目 (履修区分)	専攻実習（食品加工） (必修科目)		担当教員	宮城 美紀子
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通年
単 位 数	2 2 単位	講義： 単位 実習： 2 2 単位	時 間 数	6 6 0 時間
授業の目的 及び概要	食品加工では、農作物の生産（1次産業）だけではなく、製造・加工（2次産業）、販売（3次産業）にむけて取り組み、農産物に新しい付加価値をつけ、農業所得の向上に向け6次産業化への研究を行い、地域農業のリーダー及び指導者として、新しい地域産業を創出する取り組みを目指す。			
授業の到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6次産業化事例から、現状と課題を把握する。 ・ 学校圃場や地域の農産物を教材として、その加工特性、加工貯蔵技術を習得する。 ・ 農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。 			
授業の方法	専攻教室、専攻圃場、食品加工実験室で実習を行う。			
授業内容			講義	実習
	1 6次産業化に取り組む事例の現状と課題の把握 2 地域農業の現状や問題点の把握及び課題解決手法の把握 3 食品加工専攻圃場での基本的な野菜栽培技術の習得 4 実践力の体得 (1) 農産加工原料の特性と加工方法の習得 (2) 貯蔵の技術習得 (3) 生産工程管理の基本と5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実践 5 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 (1) 千葉県における6次農業経営の現状と課題の把握			100 100 300 160
テキスト	適宜資料配布			
成績評価 の方法	実習態度（80%）、技術・知識の習得状況（20%）			
備 考	参考図書 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病虫害雑草防除指針」（千葉県農林水産部環境農業）、「農業技術体系」、（社団法人 農山漁村文化協会）			

授業科目 (履修区分)	専攻実習 (情報経営) (必修科目)		担当教員	菅澤 太地
対象年次	研究科 1 年 研究科 2 年		期 別	令和 8 年度 2 か年通期
単 位 数	2 2 単位	講義 : 単 位 実習 : 2 2 単位	時 間 数	6 6 0 時間
授業の目的 及び概要	圃場での栽培および持続可能な農業経営を行うための分析手法を学ぶこと とで、農業現場の課題解決に必要な課題解決能力および法人運営に対応で きる幅広い知識を習得する。			
授業の到達 目標	自ら考えて栽培計画や試験研究の実施を行うことで、論理的思考を養うこ とを目標とする。			
授業の方法	農場での実習及び現地視察			
授業内容			講義	実習
	1 経営に関する知識の習得 (1) 経営者に必要な広い知識 (2) 農産物の流通、マーケティングの必要性 (3) 生産工程管理と 5 S (整理、整頓、清掃、清潔、躰) の実践 (4) スマート農業の利用について			150
	2 情報収集の手法と処理技術の習得 (1) 農業経営に必要な情報の集め方 (2) 情報処理やプレゼンテーション資料の作成方法 (3) 農業経営の収益性、生産性の分析 (4) 農業経営診断の指標、手順			150
	3 知識や技術の実践力の体得 (1) 主要品目の栽培技術習得と経営効果の分析			300
	4 地域農業のリーダー及び指導者としての涵養 (1) 県内の優良農業経営体の視察調査により経営や指導 能力を学ぶ			60
テキスト	適宜資料を配布する			
成績評価 の方法	取り組み姿勢 (80%)、知識・習熟度 (20%)			
備 考	参考図書 : 「野菜ハンドブック」 (千葉県農林水産技術会議) 「農作物病害虫雑草防除指針」「主要農作物等施肥基準」 (千葉県農林水産部環境農業推進課) 「野菜経営収支試算表」 (千葉県農林水産技術会議)			